

西脇市消費生活センター

☎22-3111 (防災安全課内)

No.175

新型コロナウイルスに便乗した悪徳商法等に注意

新型コロナウイルス感染症に関する不安をあおり、勧誘等をする事例が報告されています。

■事例①

「マスクを無料送付する。確認をお願いします」というホームページのアドレス (URL) 付きのメールが届いた。

■事例②

「新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響で、金の相場が上がることは間違いない」と、金を買う権利を申し込むように言われた。

■対応方法

①心当たりのない送信元からの怪しいメール等には反応せず、メールに記載されたURLはクリックしないようにしましょう。

②新型コロナウイルスに便乗した勧誘をする業者には耳を貸さないようにしましょう。

※不審に思った場合は西脇市消費生活センターに相談してください。

■衛生マスクの転売行為禁止

国民生活安定緊急措置法の適用によって、「衛生マスク」の転売行為は禁止されています。違反者には懲役や罰金が科せられます。

めぐりコラム 13

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課 (市役所内線322)



最優秀賞の黒田庄和牛を使ったレシピ「わんぱくマンガ肉」

地域食材で魅力発信

西脇市は地域食材の魅力発信や地産地消の推進を目的に、「にしわきレシピコンテスト」を開催しています。今年は「我が家のおもてなし料理」をテーマにレシピを募り、中学・高校生ならではの着眼点で作られたレシピなど、過去最多の277点の作品が集まりました。

市では書類審査を通過した上位5作品を実食するなどして最終審査を行い、最優秀賞に黒田庄和牛を使用し、漫画に出てくるような豪快なお肉をイメージした「わんぱくマンガ肉」を選びました。また、金ゴマや西脇市の地元野菜を使用し、料亭の前菜のような「もて・もっち れんこんまんじゅう」が審査員特別賞を受賞。今回選ばれたレシピは市内のイベントなどで発信する予定です。

地産地消を推進する中で、皆さんが地域食材について考える機会や触れる機会を作ることは、地域食材の素晴らしさ、さらには地元への愛着を高めることにつながります。「黒田庄和牛」や「金ゴマ」などの西脇市が誇る食材を、ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。



▲昨年度の両市中学生親善使節団員 (レントン市西脇通りにて)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

姉妹都市・レントン市で異文化交流を体験

―西脇市中学生親善使節団員を募集します―

西脇市・市教育委員会・市国際親善交流協会では、姉妹都市アメリカ合衆国ワシントン州レントン市へ派遣する「中学生親善使節団員」を募集します。相互のホームステイを通じて、文化や生活様式、考え方の違いなどを理解し、自分自身の視野を広げるチャンスです。

昭和44年に西脇市とレントン市が姉妹都市提携を結んで今年で51年目です。レントン市とは、この間、中学生親善使節団や市民使節団を相互に派遣するなどして、交流を深めてきました。

中学生親善使節団の派遣は昭和62年に始まり、今年も市内在住の中学3年生を対象に募集を行います。

これまで参加した先輩たちからは、中学3年生の皆さんに「このチャンス逃すのはもったいない。良い体験ができるので、絶対にレントンに行ってみよう」との声が届いています。

この機会に異文化交流を体験し、大きく成長しませんか。

◆派遣期間 8月16日(日)～25日(火)

／26日(水)帰国予定

◆対象

市内在住の中学3年生(市内在住で市外学校に通学している生徒も応募可)

◆募集人数 14人(予定)

◆参加費 個人負担8万円(別途諸経費として1万円程度必要)

◆応募方法 所定の申込書と志望動機書(目的や希望理由を指定原稿用紙両面1枚にまとめられたもの)を学校教育課へ提出してください(郵送可)。用紙は市ホームページからダウンロードできます。

なお、提出された書類は返却できません。

◆応募締切 4月17日(金)必着

◆応募・問合せ 学校教育課(市役所内線527)

心のスケッチ

133

人権教育課コラム

春惜しむくよき時間、よき交わりく

春を表すさまざまな季語の一つに、「春惜しむ」という言葉があります。春は物事の始まりの季節であり、出会いや別れの多い季節でもあります。春を惜しむということは、人生においてつかの間のものがあるよき時間、よき交わりを大切にすることに繋がるといわれています。

新たな年度を迎え、進学、就職、転勤等で環境が大きく変化するこの時期。新生活に期待を膨らませる人もいれば、うまく適応できるか不安を抱える人も多いのではないのでしょうか。

私は9年前に転職し、教育職に就きました。異業種への転職は迷いに迷った上での決断であったため、「この世界で本当にやっていけるのだろうか」「周りに迷惑を掛けるしまわらないだろうか」と不安に思っていたことを覚えています。

そんな私を支えてくれたのは、「あなたにぴったりの仕事やん」「きつといい先生になると思う」と言って送り出してくれた前職の同僚たちの

存在でした。私もかつての同僚と同じように、子どもたちの可能性を信じ、温かく見守っていこうと心に決め、全校朝会の舞台上に立ちました。あれから9年。職場が変わり距離は離れても、そのときのつながりは今でも残っています。疎遠になってしまった人もいますが、その人と一緒に過ごした日々は、今も自分の考え方や行動に脈々と生き続けていくように感じます。

振り返ってみると、人とのつながりの中で受け取ったものは、生きていく上での大きな支えになっているような気がします。昔の人が、人と交わり過ぎてきたよき時間を惜しむ気持ちが、身近に感じられます。

この春、初めて6年生の担任をしたときの子どもたちが、高校を卒業しました。新しい環境へ飛び込む彼らも、よき時間、よき交わりに思いをはせているかもしれません。満開の桜を眺め、感傷的な気持ちになりながら、私もまた、新たな歩みを始めます。(人権教育課)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

75



西脇市長 片山 三

ふるさと納税過去最高額更新

西脇市では、平成20年におけるさと納税制度ができた時から、地元の特産品を返礼品として寄附の受け入れをしています。以来、制度の認知度が高まる一方、返礼品の行き過ぎを指摘される自治体もあり、新たな規制がかかりました。その中で、西脇市は地道に350種類もの返礼品をそろえてふるさと納税の受け入れを行い、昨年度の受け入れ額は過去最高を記録し、3億6千万円を超えました。大変うれしいことです。



返礼品として人気の日本酒

本市産の山田錦を使って、青森や栃木ほか全国各地の酒蔵で日本酒を造っていただいていると、返礼品別に寄附額を見ると、昨年度は日本酒がトップでした。その中で、2月には名古屋市内に本社のある萬乗醸造さんが西脇市で酒蔵を落成されました。市にとっては、実に約50年ぶりとなる酒蔵復活です。10年前、萬乗醸造の社員の方が西脇市内で山田錦の栽培を開始され、平成26年には農業生産法人も設立。市とは、人材育成を含む包括的連携協定を締結し、農業や日本酒造りが学べる研修もスタートする予定です。酒蔵等を拠点に、学生や社会人等、市内外から農業・醸造に興味がある人を呼び込み、体験等を通して交流人口の拡大と人材育成を行うなど、ともに地域の活性化を目指します。若者が誇れる「元気なまち西脇市」を皆さんとともに創ってまいります。